

また、事業区域の上空で逆転層が発生することにより、一時的に高濃度となるおそれがあるため、逆転層の影響を考慮した予測も行いました。予測濃度は、表4-8に示すとおり各項目とも環境保全目標を下回っています。

表4-8 焼却施設排ガスの予測結果(短期濃度予測)

項目	煙突からの影響濃度	現況濃度	予測濃度	環境保全目標
二酸化いおう (ppm)	0.0020	0.034	0.0360	0.1以下
二酸化窒素 (ppm)	0.0008	0.034	0.0348	0.1以下
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0020	0.138	0.1400	0.2以下
塩化水素 (ppm)	0.0020		0.0020	0.02以下

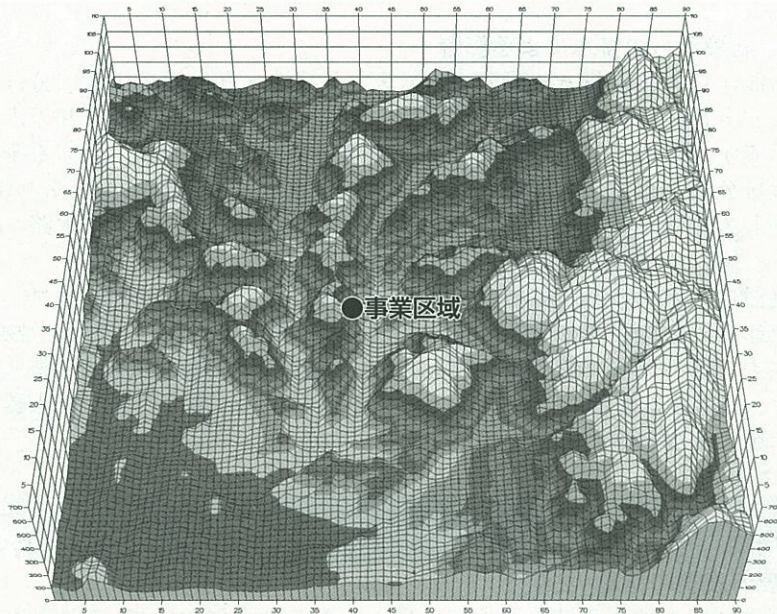


図4-2 予測に用いた地形データ(標高メッシュ)

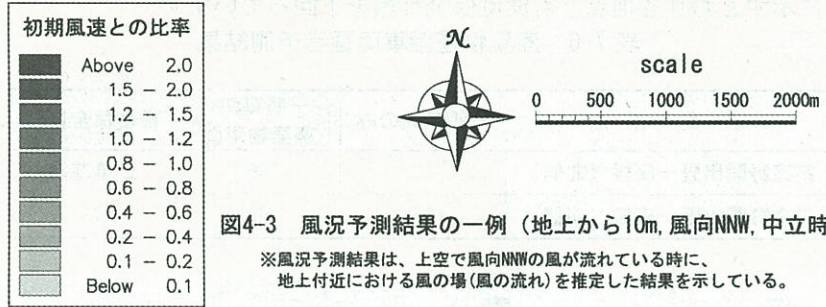
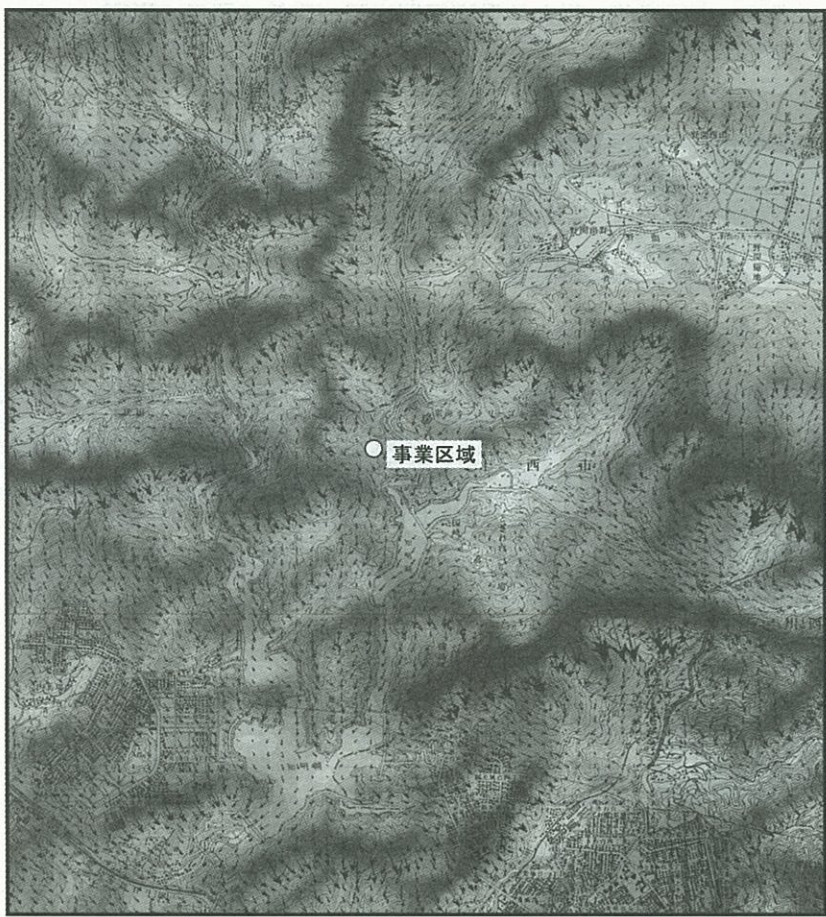


図4-3 風況予測結果の一例(地上から10m, 風向NNW, 中立時)

※風況予測結果は、上空で風向NNWの風が流れている時に、地上付近における風の場(風の流れ)を推定した結果を示している。

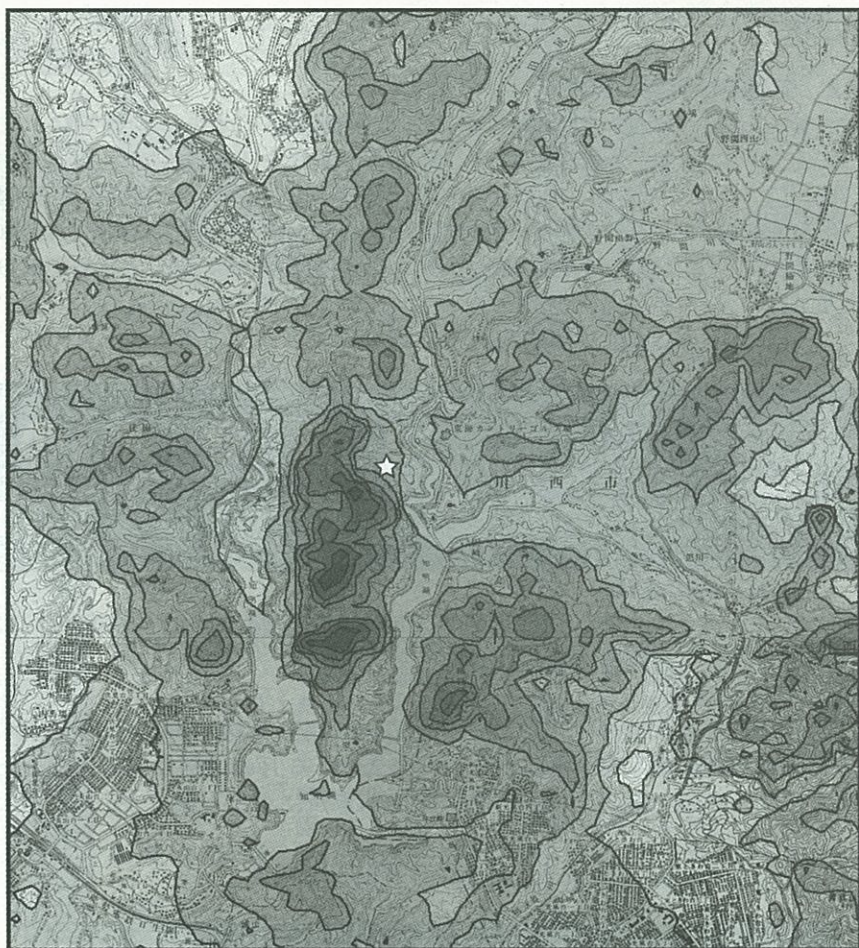


図4-4 二酸化いおう影響濃度分布図(年平均影響濃度、地上)

## 5 水質汚濁

### 5.1 現況調査の結果

事業区域下流1地点において、月1回の平常時水質調査を1年間行いました。生活環境項目では水素イオン濃度及び大腸菌群数以外は環境基準値を下回っています。また、健康項目は全項目とも環境基準値を下回っていました。

表5-1 水質現況調査結果

項目	水素イオン濃度	生物化学的酸素要求量 (mg/l)	化学的酸素要求量 (mg/l)	溶存酸素量 (mg/l)
数値				
平均値	8.3	0.8	3.2	10.9
測定値	7.5~8.9	<0.5~1.4	2.2~4.6	8.2~14.0
環境基準	6.5以上8.5以下	3以下	5以下	5以上
適合性	●	○	○	○
項目	浮遊物質濃度 (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	全リン (mg/l)	全窒素 (mg/l)
数値				
平均値	2	4,900	0.064	0.75
測定値	<1~4	110~13,000	0.018~0.10	0.34~1.5
環境基準	25以下	5,000以下	-	-
適合性	○	●	-	-

注) 化学的酸素要求量の環境基準は湖沼適用の基準、他は河川適用の基準。  
適合性の○は環境基準に適合していることを、●は適合していないことを示す。

### 5.2 予測及び評価の結果

#### 5.2.1 工事時の濁水の影響

降雨時に事業区域から発生する濁水の影響については、SS濃度(濁水)の増加を抑制するために次のとおり環境保全のための措置を実施して低減させることから、現況の河川等水質への影響は小さいものと考えられます。

●仮設沈砂池及び仮設調整池を早期に設置し、発生する濁水を滞留させ、上澄み水を放流します。また、堅集水樹、仮排水管等も併用します。

●法面崩壊の防止と土砂流出防止のため、法面保護(種子吹付工等)などを適宜実施します。

●濁水の発生が予想される激しい降雨時には、土壌等により土砂の流出を防止します。

なお、造成区域における土壌調査の結果、鉛が環境基準値を超過していたため、工事時の濁水等による影響を与えるおそれがあると考えられます。このことに関しては、事業実施段階(工事実施前)に、汚染土壌の分布域を把握するための詳細調査を行い、適切な環境保全対策を実施していくことにより、河川等水質への影響を抑え、環境保全目標を達成すると考えます。